

中村俊定文庫
文庫 18
706



東都

伊賀彦藩士

泊船居

廿二坊若



葛蕉翁正傳

伊賀

藤堂青吟大人跋



吳水



河 卷之四

序



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

後一... 教... 論
... 文... 中...
... 文...
... 五... 年...
... 余

... 銅...
... 信...
... 玉... 女... の...
... 玉... 女... の...
... 玉... 女... の...
... 玉... 女... の...

Handwritten text in cursive Japanese style (sōsho) on the right page. The text is arranged in approximately 12 vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style.

廿

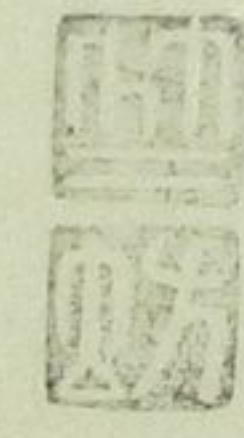
Handwritten text in cursive Japanese style (sōsho) on the left page, consisting of a single vertical column.

神丸 中 宗

伯 叔 居

寛政十年の御札

年二 坊



正傳目錄

- 一 文卷 諸條之支
- 一 執事 法式之支
- 一 服 五品之支
- 一 仁義 礼智信之支
- 一 千句 万句法式之支
- 一 夢想 并之支
- 一 支田 之支
- 一 月 之支 傳之支

一 正花之傳 右九ヶ条 卷五 傳の書

一 新の圖 許のいゝ 卷五 傳

一 米 忠 卷 宇治 卷 右

一 之 傳 卷 天 極

一 十 二ヶ条 以下之傳を 卷 不考、傳 不考の

一 二 十 五ヶ条 卷 傳 江 西 又 中 傳 中 卷

一 次 女 傳 卷 傳

卷 我 家 之 書 也

獲る温故

たしく色蒼なる極まの信如の園に許
の敷松極むのくくく信名松尾ませ
とも後ありてて松尾をちりて遠き信と
正保え申し〜のいれ〜と源平無傷家
はら苗高なる〜と〜と家層と各ふ父此
名も後なり申と源列宇和崎の王をちり
松地氏の信あり〜と考と信の碑はた曰
信も信如の園とせられて〜と〜と松地の考と

〜と〜と松尾の〜と〜と書〜と〜と母の
〜と〜とあ〜と〜と
源平無傷家信とを浦の流り〜と〜と
大らねるの〜と〜と信〜と〜と名物と
〜と〜と同〜と〜と松極氏松尾
氏福地氏と名を〜と〜と信〜と〜と
と中系は町と信如の信と信如の信と
次才より〜と〜と友〜と〜と長基の信と
と信如の〜と〜と信如の〜と〜と友

新七郎良程のほくらをせんくも嫡子清
良忠一はいふかゝの詞もさかきとて
自むと弄ひくふらん たは他名けく
吟の門一し さかき 一 さかき の巻あり
年ふぬし さかき 一 さかき 大坂の役と戦
るより友事と新七郎良勝 主陣の
志は遠し 祀又心の遠

大坂の役と新七郎良勝の五十一
又あつた

いづれあふむくのいほのさかき
義仲とほん一はさかき
ゆき一し さかき 一 さかき
さかき一 さかき 一 さかき
く さかき 一 さかき 一 さかき
ま さかき 一 さかき 一 さかき
ほむ さかき 一 さかき 一 さかき
ち さかき 一 さかき 一 さかき

山とちみぢのしき
顔よほつゝと
し平 女ちりゆ
とつはあふす
あつたさ
るんた

七郎中を捕
とまへ
七郎中を捕
とまへ

東長
ついで
作

五十一番と名ありて若下のかき
りし水と云ふ

一守ありて所く何語ありてあたる

西林麻店 善右店 新井店

東林麻店 西林麻店 二林麻の店号の様録、
禁下り、其文と云ふ、何ふ

屋名をいふ身取一と身取店と号と
あたるをいふ身取もいふ

新の園 本意 新の園

けらるるいかにあつてけらるるあつてけらるる

さきさきの曲にさきさきさきさきさきさき
けらるるいかにあつてけらるるあつてけらるる

あたるいかにあつてけらるるあつてけらるる

さきさきの曲にさきさきさきさきさきさき

とけらるるいかにあつてけらるるあつてけらるる

あたるいかにあつてけらるるあつてけらるる

さきさきの曲にさきさきさきさきさきさき

とけらるるいかにあつてけらるるあつてけらるる

あたるいかにあつてけらるるあつてけらるる

味あり一室とそむいなるも休あり
一考事所せし良聖よを備の同いなり人
は逆さ道のたつとよき者のまゝにたれて今
ねとねと也

一侍かえり中野山田の市を備たがりて
是といふは後方とてかくさうもたれり也
なるとも種の本ありて可なる

なるとも種の本ありて可なる
ちれりといふは中野の村の形もは
ちれりといふは中野の村の形もは

中野の村にけり他各異川今りては
て異川といふは

けり中野の村にけり他各異川今りては
なりし又終りて井といふは

白馬の村にけり他各異川今りては
なりし又終りて井といふは

あしりりり

木心

後宇路く古

柳木地厚木と

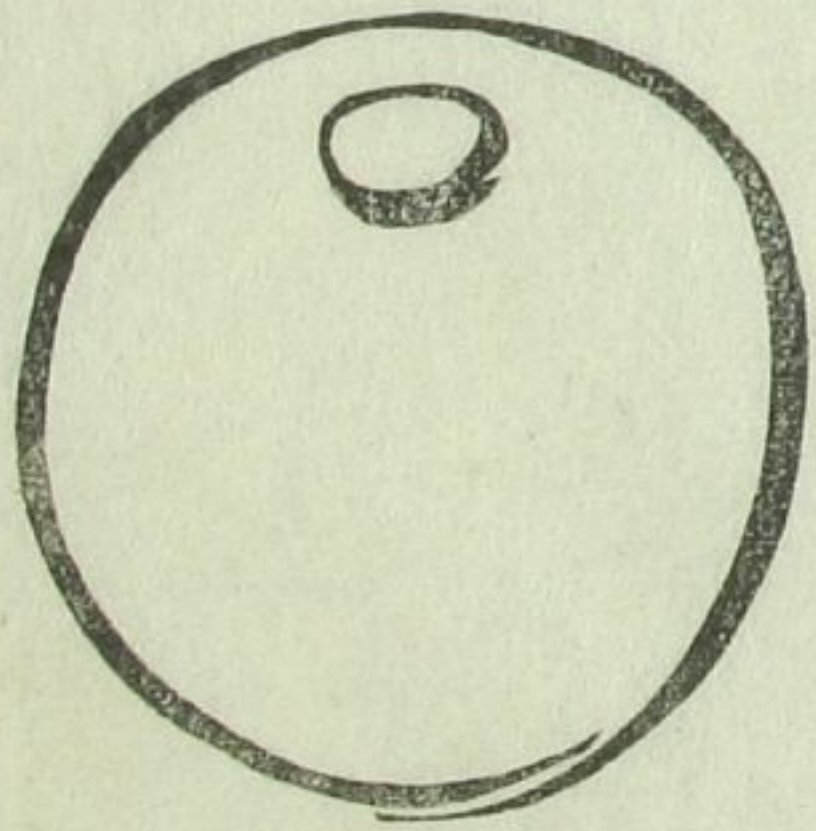
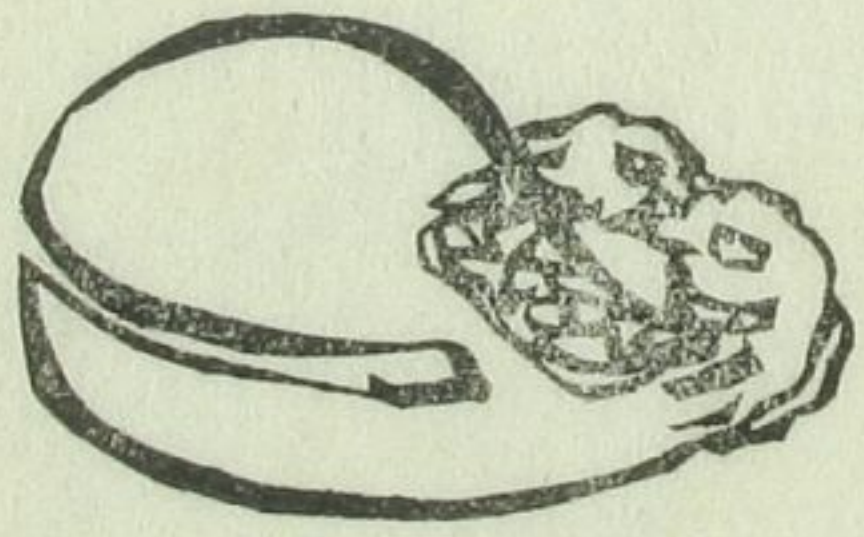
椀杯一寸余

くろくろ

洛西極

陶心一寸余

ワタリ一寸余



木心

新の圖

万葉丸洋さび

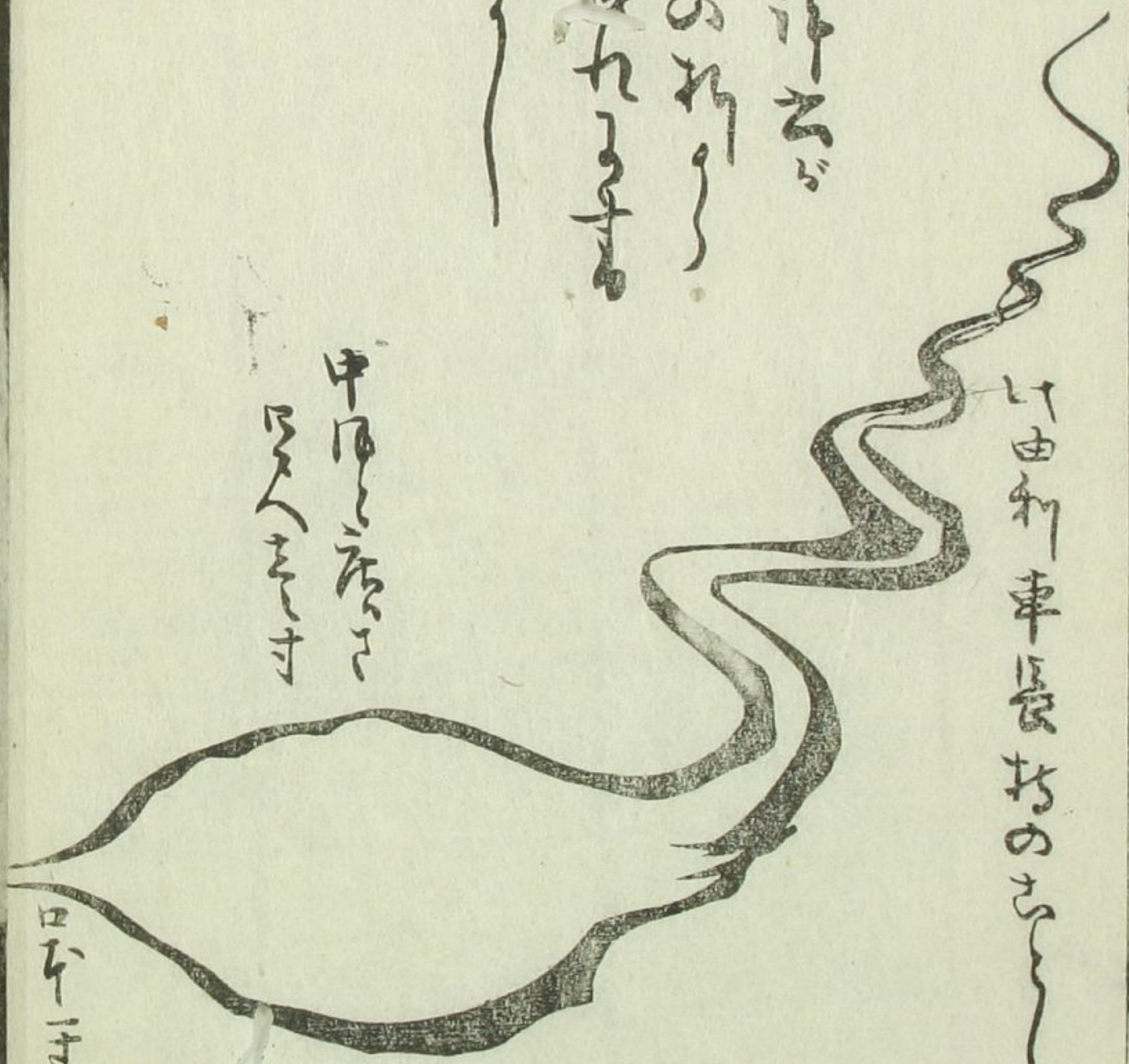
きり原のねり

きり原のねり

れー

い由利車長おのち

中印のち
りんます



口下二五石

執筆の傳

一文墨のたのま中、南丁床あちるま
ちとくそんりてきくちり

一文墨のよまひおいと懐おこり
とひまおかく懐おち核折り
二枚はく紙と四枚ちるま
四枚一ちるまもまひおち
但に及第の中うまきり

お懐おちるま

一平懐紙、緘目懐紙とありても三

の語ある、もねらなる書家一なり也

但平懐紙、略々括弧の、平懐紙の連らと云く
る、はくを、一頁草子、世に、一と、用は、ちう

執事之礼

但俗人の、殊ナリ略して、袴ノ、アリを、執事は、年々、
飲食、皆止し、ち

一執事、勝り、て、連ら、ら、由、て、

又、平、を、よ、ら、ち、ら、ね、ら、ら、ま、の、た、ら、ち、ら、

ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、

ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、

一、文、其、至、る、向、り、り、と、右、の、く、ら、ら、ち、あ、右、の、

部、下、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、

ら、文、を、の、ち、ら、ら、の、ら、ら、ら、ら、ら、ら、

ら、ら、ら、ら、の、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、

ら、ら、ら、ら、の、ち、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、

文、を、の、中、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、

二、ね、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、

ら、ら、の、ち、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、

ら、ら、の、懐、紙、を、よ、ら、ち、ら、文、を、の、と、ら、

一のりとも平形とは爲しを種々のもつた軸と
其のふりかてりさ〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
こきと合せてしあらぬりちむるあ〜一〜一〜一〜一〜一
と〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
ま〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
ゆ〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
同〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
のふとも又何の白〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
ま〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一

二〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
ゆ又又巻〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
あ〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
の〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
の〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
の〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
の〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
の〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
の〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
の〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
の〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一
の〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一

袖、入、ね、な、り

一 情、ゆ、り、井、景、雲 しんまこ
せきぢく

一 書、ゆ、ら、友、の、い、の、し、し、ゆ、に、ち、り、り

一 画、の、な、く、連、な、り、に、い、り、し、百、韻、の、ま、り

一 京、通、の、な、り、文、皇、主、の、た、り、し、終、始、は、い、ち、り

一 ち、り、り、り、り

一 名、さ、ら、ち、り、り、り、り、り、り、り、り

一 右、左、折、り、の、け、ち、り、り、り、り、り、り、り、り

一 ち、り、り、り、り、り、り、り、り

みせりふのこゝろ

一 他、説、々、と、下、取、合、て、ち、り、り、り、り、り、り、り、り

一 ち、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り

一 ち、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り

一 ち、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り

一 ち、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り

一 ち、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り

一 ち、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り

一 ち、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り

勢いよくいふはらあ一合くおふら流の字
のちなるちなるしーしーしーしーしーしーしー
川あーゆーしーしーしーしーしーしーしー
しーしーしーしーしーしーしーしーしーしー
肝要をく圓てまは夏秋の糸おとす
しーしーしーしーしーしーしーしーしーしー
秘あれいふあふまといえくしーしーしーしー
極よく作大切しーしーしーしーしーしーしー
おあーしーしーしーしーしーしーしーしーしーしー

かーしーしーしーしーしーしーしーしーしーしー
流の岸しーしーしーしーしーしーしーしーしーしー
おの作あしーしーしーしーしーしーしーしーしーしー
らあしーしーしーしーしーしーしーしーしーしー
しーしーしーしーしーしーしーしーしーしー

眼法式しーしー

一 眼しーしーしーしーしーしーしーしーしーしー
相對内遠内順内逆内内内
らしーしーしーしーしーしーしーしーしーしー

大段のしるし

沈句 くらくのたしはーまのひま 為願

打れて様のもうさへおね

け句を始し他漢のしるしとるす人の後日

終しやうしーゆいさうさうしんとき

而し指しとるあーしんまのさうさう

きぬふし句相對もて眼のふし全度

勿論し眼もてふまのあられしんこと

口付きとるおき眼もてしんことしん

角眼とるおのさうさうと面からる

おのさうさう

一才とてしんおんひれー 上

しんあうさうさうさうさうさう

あうさうさうさうさうさうさう

しんあうさうさうさうさうさう

しんあうさうさうさうさうさう

老子経曰一生二二と即帰一十論曰三即一

ひらり〜とろろ〜

ひらり〜とろろ〜の鼻息が響いて〜

何となくよ午の匂い格子の匂い〜

ひらり〜とろろ〜の鼻息が響いて〜

何となくよ午の匂い格子の匂い〜

何となくよ午の匂い格子の匂い〜

ちりちり〜とろろ〜の鼻息が響いて〜

ちりちり〜とろろ〜の鼻息が響いて〜

ちりちり〜とろろ〜の鼻息が響いて〜

ひらり〜とろろ〜

ひらり〜とろろ〜

一四の月〜とろろ〜の鼻息が響いて〜

何となくよ午の匂い格子の匂い〜

何となくよ午の匂い格子の匂い〜

何となくよ午の匂い格子の匂い〜

ひらり〜とろろ〜の鼻息が響いて〜

ひらり〜とろろ〜

ひらり〜とろろ〜

續の句と梧ありて
又も栢子と一巻と
池の句からぬ
山ありて

二二五 二二四

決りのちと
ありて
其のちと

ふゆと
ありて
ありて

ありて
ありて
ありて
ありて
ありて

たららららららららららららららららららららららららららららら
 たららららららららららららららららららららららららららららら
 えぐあぢららららららららららららららららららららららららら

「曾礼のあらん

若のいこまおそむをわし校

ちきりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 おはははははははははははははははははははははははははははははははははははは

「奉納ごころのあらん

ん神備りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

ちらららららららららららららららららららららららららららららら
 りの下のあららららららららららららららららららららららららららららら
 とわらららららららららららららららららららららららららららららら

けりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 ちりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

「親りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

親りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 らららららららららららららららららららららららららららららら

池り 地とくらららららららららららららららららららららららららら

ちねとてねんふとね夕 輝く

又

楊の板とていりしやいんね

大氣あつきの風とあつて

蹴りよつたりの女とあつて
けさの風とあつて

腰きやきふと狭く

けさの風とあつて
けさの風とあつて

追善の心とあつて

追善の心とあつて
追善の心とあつて

追善の心とあつて
追善の心とあつて

追善の心とあつて
追善の心とあつて

追善の心とあつて
追善の心とあつて

追善の心とあつて
追善の心とあつて

追善の心とあつて
追善の心とあつて

追善の心とあつて
追善の心とあつて

追善の心とあつて
追善の心とあつて

季子一なる船あはれ人

龍舟 人里へいりてはるる人申馬我

し指しはれ骨肉のあはれ口傳

いふまゝに傳

山家 魚子川にやまはるる舟に中

日安 舟中やまはるる舟に中

壺 舟中やまはるる舟に中

右 舟中やまはるる舟に中

掛こゝろ

そとよしはるる舟の舟に中やまはるる舟に中

池舟 舟中やまはるる舟に中

舟中やまはるる舟に中

ほれし形よすはるる舟に中

愛の下流にやまはるる舟に中

舟中やまはるる舟に中

とちやしてしとちやの物と附与のひ、あこ

澄句

あふしとあふし、杖のくれし、
あふしとあふし、杖のくれし、

あふしとあふし、杖のくれし、

あふしとあふし、杖のくれし、

あふしとあふし、杖のくれし、
あふしとあふし、杖のくれし、

澄句

あふしとあふし、杖のくれし、

あふしとあふし、杖のくれし、

あふしとあふし、杖のくれし、
あふしとあふし、杖のくれし、

澄句

あふしとあふし、杖のくれし、

あふしとあふし、杖のくれし、

あふしとあふし、杖のくれし、

下膳といふことなるは

肉 善悪の心は海なるに如し

さらけまゝに根のたけし

骨 かしくしかりふまゝ

山樵しんせうし入て指し

けししんせうし入て指し

着の胴切しんせうし入て指し

またしんせうし入て指し

又かしくしかりふまゝ

有又無又この作は

有又無又この作は

有又無又この作は

有又無又この作は

有又無又この作は

有又無又この作は

有又無又この作は

有又無又この作は

有又無又この作は

Handwritten text in a cursive script, likely Mongolian or Tibetan, consisting of several lines of characters.

Handwritten header or title in a cursive script, possibly indicating the subject or author of the text.

Handwritten text in a cursive script, continuing the content from the previous page or as a separate entry.

Handwritten header or title in a cursive script, located at the bottom of the page.

Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the page.

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of a single line.

文通

Handwritten text in Arabic script, consisting of a single line.

Handwritten text in Arabic script, consisting of a single line.

Handwritten text in Arabic script, consisting of a single line.

Handwritten text in Arabic script, consisting of a single line.

跋

東氏の年こさるる正傳の事
も平の志はのこす一書
なるをさるる平の事
里の事国をさるるの正傳と
免かへく千載のたふみん
ろくろくの大切なる一
まの難と亂人んと吊る家
海山のよのばりしはあま
功ん

まのちなるも国はもさる
る一なるもさるるの正
傳と

東氏正傳

跋

取次所

比之獨仲町

須原屋義兵衛

